

## 2018年度 後期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	平塚 信子
顕彰科目名	教育心理学（学習心理学を含む）
<p>●授業運営において工夫されている点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業運営においては、さまざまな理論や専門用語を「言葉だけ」で覚えるのではなく、教育現場や学生自身の経験と結び付けて理解できるよう心掛けました。</li> <li>・授業は、パワーポイントを使用せず、板書を書き写してもらう形式で進めました。毎回、授業の最初に要点をまとめたレジメと図・表資料を一組にして学生に配布し、板書内容をレジメに書き写してもらいました。板書を書き写すために、学生は授業に集中せざるを得なかったと思います。</li> <li>・資料配布後、単元の概要を説明し、その単元にまつわる学生自身の経験（例えば、単元が『教授学習過程』の時、まず好きだった授業、苦手だった授業等）を思い起こすよう促すこともありました。理論や専門用語を説明する際、できるだけ具体例をあげるようにしました。テーマに応じて私が学校現場で感じた課題も交えるようにしました。</li> <li>・授業の終わりには、毎回テーマを設定し、短いレポートを課しました。レポートの内容から学生の理解度を確認し、必要に応じて、次の授業で補足説明や追加資料の配布をしました。また逆に「このような見方もあるのか」と私が感心したレポート内容については、できるだけ紹介しました。</li> </ul> <p>板書を書き写すだけでなく、最後にレポートも書かなければならないので、学生は大変だったと思います。でもその積み重ねもあり、後期にはテーマに応じた感想や、自分の経験を踏まえた考えを一生懸命に書いてくれる学生も増えました。1年間を通して、理論と教育現場・自分自身を結びつける学習方法を身につけてもらえていれば、嬉しいです。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えておられることなど</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義では、時間的な制限もあるため、教員からの一方的な説明が多くなります。学生に投げかけて考えてもらうこと、さらに意見交換をする機会をもう少し作れたらよかったなと思います。</li> </ul>	